

乳幼児の生活環境と音楽に関する研究（第4報）

曾 我 部 司

Tsukasa Sogabe

研 究 の 目 的

乳幼児が日頃口ずさんでいる歌（音楽）をよく耳にするが、果して生活環境と音楽はどのような関係にあるのか。昔と違い現代における高度経済成長に伴い、TV、ビデオ、オーディオ、ピアノ等の普及、また、宅地造成により子どもの遊び場の減少、ゲームウオッチ、ファミリーコンピューターなど高価玩具の流行、兄弟も少なく、塾通い等で遊び時間も著しく減少したと思う。こうした生活環境の中において、オ1報では、子どもの年齢、性別、出生順位、通園状況、TV視聴率と遊び、音楽はどのような関係にあるのかを中心に、またオ2報では、父母の年齢、父母の音楽に対する関心、好みと子どものそれとはどのような影響を受け合っているのかを調査したが、今回は、家庭における所有楽器は子どもにどのような影響を及ぼすのか興味のあるところであり、所有楽器を中心に発展させ、実態調査の結果、研究報告したいと思う。

研 究 方 法

1. 調査対象

中国短期大学周辺の乳幼児590名、 ※若干広島、東京を含む。

3. 調査時期

昭和59年7月～9月

3. 調査方法

保護者に対するアンケート調査による。

4. 配布及び回収

配布数830枚

回収数622枚

有効回答数590枚（有効回答率71.1%）

5. 調査項目

生活環境（①所有楽器 たゞしピアノ、オルガン、電子オルガン、ギター、バイオリン、鍵盤ハーモニカ、ハーモニカ、笛、タン布林、カスタネット、琴、三味線、フルート、クラリネット、サクスの15種類とした）

音楽に関する項目（①子どもの音楽好きさらい ②子どものおけいごと）

結果及び考察

調査人数内訳は男児282名、女児308名、計590名である(表1)

表1 調査人数内訳

性	年齢	0~1才	2才	3才	4才	5才	6才	計
男		25	37	27	60	87	46	282
女		40	34	47	48	87	52	308
計		65	71	74	108	174	98	590

1. 生活環境

①子どもの年齢と所有楽器

有意差がないため表2に上げておくにとどめる。

表2 子どもの年齢と所有楽器

楽器 年齢	全体	ピアノ	オルガン	電子オルガン	ギター	バイオリン	鍵盤ハーモニカ	ハーマニカ	笛	タンブラリン	カスタネット	琴	三味線	フルート	クラリネット	サクソ	その他
0~1才	7.8	8.8	7.0	9.2	10.5	0	2.9	6.5	8.2	9.2	7.0	14.3	10.0	18.2	0	33.3	20.0
2才	10.9	13.0	7.7	10.5	10.5	0	7.5	12.4	12.5	9.7	10.7	10.7	40.0	9.1	0	33.3	10.0
3才	13.0	14.0	15.5	15.8	11.1	20.0	11.0	12.6	10.8	14.1	11.8	25.0	20.0	36.3	20.0	0	13.3
4才	19.1	16.1	18.3	15.8	20.4	30.0	16.8	20.9	19.0	21.1	19.8	25.0	0	9.1	20.0	33.3	16.7
5才	30.7	30.0	30.4	31.6	32.7	20.0	35.8	30.0	29.2	26.4	33.3	14.3	30.0	18.2	40.0	0	26.7
6才	18.5	17.1	21.1	17.1	14.8	30.0	26.0	17.6	20.3	19.5	17.4	10.7	0	9.1	20.0	0	13.3
計	100.0 (1973) 人	100.0 (193) 人	100.0 (142) 人	100.0 (76) 人	100.0 (162) 人	100.0 (10) 人	100.0 (173) 人	100.0 (340) 人	100.0 (232) 人	100.0 (185) 人	100.0 (373) 人	100.0 (28) 人	100.0 (10) 人	100.0 (11) 人	100.0 (5) 人	100.0 (3) 人	100.0 (30) 人
X ² 検定	—	有意差なし															

②子どもの性別と所有楽器(表3)

表3 子どもの性別と所有楽器

楽器 性別	全体	ピアノ	オルガン	電子オルガン	ギター	バイオリン	鍵盤ハーモニカ	ハーマニカ	笛	タンブラリン	カスタネット	琴	三味線	フルート	クラリネット	サクソ	その他
男	45.4	41.5	39.4	47.4	56.8	70.0	48.6	45.6	43.1	38.9	47.5	21.4	50.0	45.5	60.0	66.7	50.0
女	54.6	58.5	60.6	52.6	43.2	30.0	51.4	54.4	56.9	61.1	52.5	78.6	50.0	54.5	40.0	33.3	50.0
計	100.0 (1973) 人	100.0 (193) 人	100.0 (142) 人	100.0 (76) 人	100.0 (162) 人	100.0 (10) 人	100.0 (173) 人	100.0 (340) 人	100.0 (232) 人	100.0 (185) 人	100.0 (373) 人	100.0 (28) 人	100.0 (10) 人	100.0 (11) 人	100.0 (5) 人	100.0 (3) 人	100.0 (30) 人
X ² 検定	—	P<0.02															

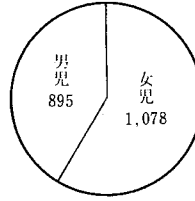
表3のとおりで、全体では男児の家庭が45.4%、女児の家庭が54.6%で、やはり楽器というのは女の子の家庭に多いことがわかる。家庭に所有されている楽器の順位は1位がカスタネット、次いでハーマニカ、笛、ピアノ、タンブラリン、鍵盤ハーモニカ、ギター、オルガン、電子オルガン、琴、フルート、バイオリン、三味線(バイオリン、三味線は同順位)クラリネット、サクソの順である。目立ったところでは、ギター、バイオリン、の弦楽器類、クラリネット、サクソといったところの管楽器類が男児の家庭に多く、バイオリン、サクソにおいては、女児に比べて2倍以上の率になっている。逆に女児に多いのは、オルガン、タンブラリン、琴に大きな差がある。全体の楽器数は男児の895に対

し、女兒は1078の
所有になっている。

(図1)中でも琴は
極端な差がある。

図1 所有楽器数

男児に多い楽器
ギター、バイオリン、
クラリネット、
サクセス



女兒に多い楽器
ピアノ、オルガン、
電子オルガン、鍵盤ハーモニカ、
ハーモニカ、笛、タンブリン、
カスタネット、琴、フルート

2. 音楽に関する項目

①子どもの音楽好き嫌いと所有楽器

子どもの音楽好き嫌いと所有楽器の関係はどうであろうか。調査してみたが、有意な差が見られないため表4として上げておくにとどめる。

表4 所有楽器と好き嫌い

楽器好き嫌い	全体	ピアノ	オルガン	電子オルガン	ギター	バイオリン	鍵盤ハーモニカ	ハーモニカ	笛	タンバリン	カスタネット	琴	三味線	フルート	クラリネット	サクセス	その他
すき	69.1	72.5	66.9	71.1	64.8	70.0	65.3	67.9	71.5	74.6	67.6	67.9	70.0	72.7	60.0	66.7	76.7
きらい	0.6	0	0.7	0	0.6	0	1.2	0.6	0.9	0.5	0.8	0	0	0	0	0	0
ふつう	30.3	27.5	32.4	28.9	34.6	30.0	33.5	31.5	27.6	24.9	32.1	30.0	27.3	40.0	33.3	23.3	
計	100.0 (1973人)	100.0 (193人)	100.0 (142人)	100.0 (76人)	100.0 (162人)	100.0 (10人)	100.0 (173人)	100.0 (340人)	100.0 (232人)	100.0 (185人)	100.0 (373人)	100.0 (28人)	100.0 (10人)	100.0 (11人)	100.0 (5人)	100.0 (3人)	100.0 (30人)
χ ² 検定	—	有意差なし															

②子どものおけいごとと所有楽器（表5）

では、子どもがどのようなおけいごとをしている家庭には、どのような楽器を有しているのか。これを表5で見ると、所有率の全体どは、1位がピアノをなっている子どもの家庭が58.1%で、次いで、音楽教室に通っている子の家庭が31.3%、電子オルガンが5.4%、バイオリンが4.0%、その他が1.2%の順である。この順位はオ1報で報告した、おけいごととの順位と同じである。

表5 子どものおけいごとと所有楽器

楽器おけいごと	全体	ピアノ	オルガン	電子オルガン	ギター	バイオリン	鍵盤ハーモニカ	ハーモニカ	笛	タンバリン	カスタネット	琴	三味線	フルート	クラリネット	サクセス	その他
ピアノ	58.1	76.8	47.7	24.2	63.3	37.5	67.3	57.1	64.8	53.6	55.9	50.0	0	40.0	0	0	66.7
電子オルガン	5.4	1.3	4.5	21.2	0	0	5.8	5.5	5.3	5.6	6.5	0	0	0	50.0	0	0
バイオリン	4.0	2.7	2.3	9.1	9.8	50.0	1.9	2.2	1.8	1.9	3.2	0	0	20.0	0	0	0
音楽教室	31.3	19.2	43.2	45.5	22.0	12.5	25.0	35.2	26.3	39.0	33.3	33.3	100	40.0	50.0	100	33.3
その他	1.2	0	2.3	0	4.9	0	0	0	1.8	1.9	1.1	16.7	0	0	0	0	0
計	100.0 (572人)	100.0 (78人)	100.0 (44人)	100.0 (33人)	100.0 (41人)	100.0 (8人)	100.0 (52人)	100.0 (91人)	100.0 (57人)	100.0 (54人)	100.0 (93人)	100.0 (6人)	100.0 (1人)	100.0 (5人)	100.0 (2人)	100.0 (1人)	100.0 (6人)
χ ² 検定	—	P<0.001															

具体的におけいごとをしている家庭の所有楽器の順位を5位まで挙げてみる。(ただし、所有数8人以上の楽器とする)

ピアノを習っている子どもの家庭では、1位がピアノの76.8%で、次いで鍵盤ハーモニカ、笛、ギター、ハーモニカの順である。電子オルガンを習っている子どもの家庭は1位が電子オルガンの21.2%で、次いでカスタネット、鍵盤ハーモニカ、タンブリン、ハーモニカの順である。バイオリンを習っている子どもの家庭は1位がバイオリンの50%で、ギター、電子オルガン、カスタネット、ピアノの順になっている。では音楽教室に通っている子どもの家庭はどうであろうか。1位が電子オルガンの45.5%、次

いでオルガン、タンブリン、ハーモニカ、笛の順になっている。やはり習っている楽器の所有1位がその楽器であり、これは順当な傾向であると思う。音楽教室はその楽器を専門教育するのではなく、総合的な音楽教育であり、オルガン傾倒の楽器の所有が上位を占めていることがわかる。

ピアノを習っているが、ピアノを所有しているのが76.8%ということは、23.2%の家庭が所有していないことになる。これは家庭ではオルガン等で練習しているのであろう。

電子オルガンにおいては、習ってはいるが、78.8%の家庭が所有していないことになる。これも他の楽器で代用しているのであろうか、一つの疑問点でもある。バイオリンも50%の所有で8名中4名が所有していないことがわかる。バイオリンのおけいこをするのに、どの楽器で代用するのであろうか。不思議である。

ま と め

以上の結果、乳幼児590名が所有している楽器の総数が1973であり、(但し、先に挙げた15種類において) 1人平均3.3の割合である。具体的には、所有率1位のカスタネットにおいては、1.6人に1コ、2位のハーモニカでは1.7人に1コ、3位の笛では2.5人に1コ、4位のピアノでは3人に1台の割合で所有していることがわかった。高価なピアノにおいても非常に高い普及率には驚かされる。豊かな時代を反映しているためであろう。また5才児が最も多く楽器を所有していることもわかった。

子どものおけいごとと所有楽器であるが、ピアノを所有していてピアノを習っている子が76.8%ということは、10人中2人は確実に習っていない。ピアノが遊んでいるということになる。電子オルガンにおいてはどうかであろうか。電子オルガンが家庭にありながら、21.2%の子どもしか習っていない。10人中約2人の割合である。

このように高価楽器においても、フルに活用されておらず、家庭のインテリアと化しているのであろうか。

家庭にこのような楽器がありながら、フルに活用されていないということは、習ってはいたがすぐに飽きてしまいやめてしまった、興味が無い、ということも原因ではあろうが、我々音楽教育者にとっても課題は多々あると思う。

幼児は生活そのものが遊びであり、“音楽あそび”から入り、子どもに焦点を当てた音楽教育でなくてはならない。教師の一方的な教育音楽であってはいけないと思う。また親の権威でもって、子どもの中にでしゃばって入り、子どもの気持を理解しないで制圧しては、興味が半減させ、よい結果につながらないのではなかろうか。

参 考 文 献

- 全国社会福祉協議会全国保育協議会：保育所に入所している子どもの生活実態調査
（調査結果報告書）昭和59年1月
- 曾我部司，土谷由美子：「乳幼児の生活環境と音楽に関する研究第1報」
中国短期大学紀要第16号
- 曾我部司，土谷由美子：「乳幼児の生活環境と音楽に関する研究第2報」
中国短期大学紀要第17号
- 曾我部司，土谷由美子：「乳幼児の生活環境と音楽に関する研究第3報」
岡山県大学音楽研究学会第14回大会研究論文集

〈付記〉

本論文は、昭和60年度中国短期大学特別研究費を受けたものであり、中・四国大学音楽研究学会、第1回大会（昭和60年11月1日）において、口頭発表した。